

DICが23/12期最終赤字を計上 直ちに格付に影響せず、今後の業績回復を注視

以下は、DIC株式会社（証券コード：4631）の23/12期決算についての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- 当社は2月13日付けで23/12期業績を公表した。営業利益は179億円（前期比54.8%減）、経常利益92億円（同76.9%減）と同期第3四半期時点の予想に沿って黒字を確保したものの、特別損失406億円の計上により、親会社株主に帰属する当期純損益は399億円の赤字（前期は176億円の黒字）となった。特別損失については、地政学リスクの高まりや世界的なインフレ進行等の外部環境悪化により、21年に買収したC&E顔料事業に係るのれん減損197億円のほか、複数の事業の生産拠点再編や事業化中止などで、合計335億円の減損損失を計上したことが大半を占める。
- 23/12期の営業利益は00年代以降で最低水準であり、00/3期以来の最終赤字となるなど業績の厳しさは否めない。ただ、四半期の営業利益は持ち直しつつあり、24/12期会社計画の業績予想は、売上高1.1兆円（前期比5.9%増）、営業利益300億円（同67.2%増）と増収増益を見込んでいる。主力製品群の競争力に大きな変化はないとみられ、また、経営資源の最適配分や構造改革も実施される計画であり、一段と業績が下振れるリスクは限定的とJCRでは考えている。多額の最終赤字の計上で財務構成にも悪影響が生じているが、現状でも3,000億円台後半の自己資本があり、一定の財務耐久力を有している。これらのことから、本件により直ちに格付を見直す必要はないと判断した。今後は、業績回復のペースのほか、買収事業のシナジー効果や構造改革の取り組みの進捗などに注目していく。

（担当）藤田 剛志・喜多村 早織

【参考】

発行体：DIC株式会社

長期発行体格付：A

見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等することは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル